

仕合わせの和

第237号

令和3年12. 1
(毎月1日発行)

言葉の大切さ

住職 谷川寛俊

私達は、自身の気持ちを第三者に伝える際には言葉や文字を用います。特にその代表例が「ありがとう御座います」や「申し訳ありません」などの感謝と謝罪の言葉があります。また言葉や文字とは別に、人の仕草や表情などで感情を表現する場合もあります。更に又、人間の喜怒哀楽の感情を最も顕著に表すのが目だと言われています。ことわざに「目は口ほどに物を言う」があります。何もしゃべらなくても目付きから相手の感情が分かり、また言葉で誤魔化していても目を見ればその真偽が分かるという事から、言葉や文字以外でも自身の気持ちや感情を伝えることが出来、見透かされてしまう場合もあります。

特に感謝の気持ちを伝えたいお手紙は、身延山にお住まいになられた九ヶ年間で最も多いとされています。たとえ「庵室修復書」と申しまして、お住まいになられた建物が修復された時のお手紙には「食なく雪を持ちて命をたすけて候ところに、前に上野殿より芋二駄、これ一駄は珠にもすぎ」（食べるものがなく、食物の代わりに雪を食べて命をつなぎ、以前静岡にいらっしゃる上野様より頂戴した芋二つ、これは珠玉よりも有難く感謝するばかりです。とお礼の気持ちを最大限の表現をもつてしたためられています。

普段お寺にいと、いろいろな方から様々な悩みやご相談を受ける機会が多々あります。一緒に考え悩み、何とか解決の糸口を探し、安心して笑顔で帰って頂きたいという思いで一生懸命ですが、それでもなかなか難しい相談事もあります。そういう時に、日蓮大聖人のお言葉を思い出しては、お話させて頂くこともあります。中でも『一切衆生の一切の苦は、ことごとく是れ日蓮一人の苦と申す也』

真成寺ホームページ



玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268
携帯 080-3744-2523
こちらの番号でもお寺につながります。

み仏に生かされている
有難さを感じずる心こそ
真の喜び